

「グスコーブドリの伝記」

グスコーブドリ、というのは、この物語の主人公の名前です。宮沢賢治感が強いですね。（作中ではだいたい「ブドリ」と略されています。）グリム童話のような異文化の空気と、日本の農村風景が混ざったような、不思議な文章です。これが「イーハトーブ」の世界観でしょうか。

飢饉によって親を失い、幼い妹とも生き別れたブドリが生きていけたのは、技術を身に付けたからです。また、ブドリが人々を救う研究者になれたのは、自ら学んで知識を得ていったからです。技術が知識を求め、知識が技術を育てるといふ、もっとも理想的な学びの形がそこにあります。理想形であり、基本形でもありますね。

物語の結末については、当然のことながら賛否が分かれるところです。ただ、端的に言って「カッコイイ」話だと思います。人それぞれの読み方ができる本だと思いますので、是非一度手に取って見て下さい。



「グスコーブドリの伝記」

『新編 風の又三郎』収録 宮沢賢治／新潮社／ISBN: 978-4-10-109204-1